

ヴァールブルク著作集 別巻1
The Collected Works of Aby Warburg Suppl.Vol.1

ムネモシュネ・アトラス

Mnemosyne Atlas



アビ・ヴァールブルク Aby Warburg

伊藤博明 Hiroaki Ito 加藤哲弘 Tetsuhiro Kato 田中純 Jun Tanaka

- 晩年のアビ・ヴァールブルクが黒いスクリーンを張ったパネル上で織りなした、数千年にわたるイメージ記憶の星座群——その図像の宇宙がここではじめて徹底的に読み解かれ、ヨーロッパの見てきた夢が占われる。
- そのとき、恍惚のニンフと憂いに沈む河神との間で激しく揺れる情念の身振り言語の系譜が脈打つように立ち現われ、古代占星術から20世紀のテクノロジーにいたる迷信と科学の葛藤を孕んだ弁証法の默劇が星辰のダイモーンたちによって演じられる。
- パネル解説に参考図版を多数収録したほか、日本語版オリジナル解題2種類と詳細な人名・事項索引を備えたこの書物そのものが、「ヴァールブルクの宇宙」を探索するための「アトラス（地図帳）」にほかならない。

上製丸背函入 B5版 768ページ 定価 25,200円（税込） 3月30日発売予定

ありな書房 ARINA Shobo Co. Ltd., Tokyo
〒113-0033 東京都文京区本郷1-5-15 Tel:03-3815-4604

序	アビ・ヴァールブルクと『ムネモシュネ・アトラス』 伊藤博明	7
パネルA	人間が位置づけられる宇宙的、地上的、系譜学的関係性のさまざまなシステム。……	14
パネルB	宇宙的体系の人間への投射のさまざまな段階。……	20
パネルC	火星の表象の発展。擬人的解釈に基づくイメージからの離脱……	32
パネル1	予言を目的とする、身体の一部の上に投影された宇宙。……	38
パネル2	ギリシアの宇宙の表象。天における神話的形象。……	44
パネル3	古代の図像の東方化。怪物としての神。……	52
パネル4	パネル4から8。古代における原型の形成。闘い。(巨人たちによる)略奪。……	62
パネル5	大地母神、キュベレ。子を奪われる母。……	70
パネル6	略奪(プロセルピナ、冥界[パネル5])、犠牲(ポリュクセネ)。……	78
パネル7	勝者の情念。古代ローマの勝利感。凱旋門。……	86
パネル8	太陽への上昇。	94
パネル20	ギリシア的宇宙論のアラビア的实践への発展。……	104
パネル21	東方的な古代。東方的な枠組における古代の神々……	110
パネル22	スペイン的=アラビア的实践(アルフォンソ)。……	118
パネル23	南イタリア=アラビア的古代。……	126
パネル23a	運命の賽子のための、小宇宙としての規則的な立体。……	136
パネル24	惑星の子どもたちについての教説。(北方?)。実践の理論的基礎。	144
パネル25	リミニ 呪物的天球表象と対置されるプネウマの天球表象。古代の形態。	152
パネル26	リミニからスキファノイア宮への移行としての総合的で体系的な宇宙論的層。……	164
パネル27	スキファノイア宮。	174
パネル28-29	同時代の動的な生(移行 スキファノイア宮の第三層)。……	188
パネル30	ピエロ・デッラ・フランチ[エスカ]……	198
パネル31	前パネルに続く 北方人の場合。祈念像。……	206
パネル32	グロテスク。中央の女性を囲んでの踊り。……	214
パネル33	神話のテキストにおける図解。……	224
パネル34	運搬車としてのタビスリー。主題 狩猟と行楽。……	234
パネル35	「フランス風」の古代。ヘラクレス、パリス(略奪) パリス(審判) オルベウス。……	242
パネル36	ベーザロ=南における「フランス風」古代。	252
パネル37	彫刻の形態での古代世界の浸透。……	260
パネル38	古代との関連における混合様式。宮廷生活。愛の象徴的表現。……	268
パネル39	ポッティチェリ。理想的様式。バルディーニ 古代化する愛1と2。……	280
パネル40	古代的気質の発露。連続する描写……	294
パネル41	殲滅への情念[パネル5参照] 犠牲。魔女としてのニンフ。情念の解放。	304
パネル41a	苦痛の情念。神官の死[パネル6参照]	314
パネル42	エネルギーを逆転させた苦痛の情念(十字架のもとペンテウスとマイナス)。……	326
パネル43	市民文化の代表者としてのサッセッティ ギルランダイオ 肖像画の侵入……	336
パネル44	ギルランダイオにおける勝者の情念。入場許可の第一段階としてのグリザイユ。……	346
パネル45	身振り言語の最上級。自意識の逸脱。類型化されたグリザイユから抜け出た……	356
パネル46	ニンフ。トルナブオーニ・サークルにおける「足早に運ぶ女性」。……	368
パネル47	守護天使と女首狩り族としてのニンフ。……	378
パネル48	フォルトゥーナ。みずからを解放する人間(商人)の対決のシンボル。	390
パネル49	抑制された勝者の情念(マンテーニャ)。「隠喩のようなもの」としてのグリザイユ。……	404
パネル50-51	分割と手で扱いうること。ムーサたち。徳と悪徳。調和的体系。……	414
パネル52	トラヤヌスの正義=馬で蹂躞する者のエネルギーの逆転。……	428

パネル 53	ムーサたち。天と地のパルナッソス。(ラファエッロ) マンテーニャ.....	438
パネル 54	同時にホロスコープ 実践をともなったオリュンポス化、および神 父による.....	448
パネル 55	上昇なきパリスの審判。石棺に倣って、ベルッツィとマルカントニオ。.....	456
パネル 56	上昇と墜落(ミケランジェロ)。磔刑の神格化。.....	468
パネル 57	デューラーにおける情念定型。マンテーニャ。模写。オルベウス。.....	476
パネル 58	デューラーにおける宇宙論。	486
パネル 59	北への惑星の移住。	498
パネル 60	北方の宮廷の祝祭行事。海洋の支配 地理上の発見の時代。.....	508
パネル 61-62-63-64	「従う神」としてのネプトゥヌス。クォス・エゴ・タンデム。.....	520
パネル 70	略奪の描写におけるバロック期の情念表現。演劇。	530
パネル 71	演じられる、誓約と盾の持ち上げ。「公式芸術」。	542
パネル 72	公式芸術とは対照的なレンブラント。聖餐 クラウディウス・キウィリス.....	552
パネル 73	演劇のメディアとレンブラントのメディア 熟慮のための思考空間。.....	562
パネル 74	熟慮。マザッチョ、ラファエッロ、レンブラントにおける聖ペトロ。.....	572
パネル 75	魔術的解剖。内臓占い 魂の場所の探索。.....	582
パネル 76	危険にさらされた幼児の保護 トビウツォロ [小さなトビアス].....	592
パネル 77	ドラクロワ/メディアと嬰兒虐殺。切手/バルバドス クォス・エゴ・タンデム.....	600
パネル 78	教会と国家。世俗的権力の放棄の下での宗教的権力。	610
パネル 79	ミサ。神を食べること。ボルセーナ、ポッティチェッリ。.....	620
	『ムネモシュネ・アトラス』序論 アビ・ヴァールブルク著/加藤哲弘訳	634
	『ムネモシュネ・アトラス』序論 解説 田中純	644
	解 題 ヴァールブルクの天球へ (AD SPHAERAM WARBURGIANAM)	
	『ムネモシュネ・アトラス』の多層的分析 田中純	654
	解 題 不在のペルセウス (Perseo inesistente)	
	『ムネモシュネ・アトラス』と占星術 伊藤博明	684
	文献一覧	702
	あとがき	712
	人名/神名/作品名・事項 索引	714

パネル2

ギリシアの宇宙の表象。天における神話的形象。アポロン。アポロンの同伴者としてのムーサたち。

1

少年として表現された星々を追い払う、立ちのぼる太陽(ヘリオス) 左側では、月(セレネ)が馬に乗る。アッティカの赤像式脚付きのクラテール(いわゆるブラカス・クラテール、おそらくプーリア出土、紀元前420年、

ロンドン、大英博物館、

アドルフ・フルトヴェングラー、カール・ライヒホルト『ギリシアの壺絵』、ミュンヘン、ブルックマン刊、1921-32年、第3巻(Taf.126)。

2

上昇する太陽(ヘリオス)と月(セレネ)(紀元前5世紀のギリシアの壺の像)

赤像式ピュクシスの蓋、アテネ、紀元前430年、ベルリン、国立博物館、古代部門(F2519)。

3

海から上がる太陽(ヘリオス)(紀元前6世紀のギリシアの壺)

アッティカの黒像式レキュトスの胴体部の素描、紀元前510年頃、

アテネ、国立博物館、

L・サヴィニョーニ「ヘリオスとセレネの表象について」『ジャーナル・オブ・ヘレニック・スタディーズ』、第19号、1899年(Fig.1)。

4

プトレマイオスの写本(2世紀)の模写、9世紀、

ローマ、ヴァチカン図書館(Cod. Vat. gr. 1291)。

4 1 北天の半球(fol. 2v.)

4 2 南天の半球(fol. 4v.)

5

ローマ時代の石棺、

160-70年頃、

パリ、ルーヴル美術館。

5 1 九人のムーサ、正面。

5 2 詩人とムーサ(以前はホメロスと同定) 右の側面。

5 3 詩人とムーサ(以前はソクラテスとディオティマと同定) 左の側面。

6

6 1 ファルネーゼのアトラス、

大理石彫刻(顔、腕、足を補足)、紀元前50-25年頃、おそらくは紀元前2世紀の像に基づく、

ナポリ、国立考古学博物館。

6 2 天に反映された神話等の描写を伴う、古代の天球、

ファルネーゼのアトラスを伴った古代の天球、

ナポリ、国立考古学博物館所蔵の大理石彫刻の石膏模造。

6 3 ギリシアの天球におけるペルセウス伝説、ペルセウス、アンドロメダ、鯨、ケベウス、カシオペア、M・フォルケスによる、いわゆるファルネーゼのアトラスに基づく銅版画、

M・リチャード・ベントリー『マニリウスのアストロノミコン』、ロンドン、H・ウッドホール刊、1739年。

7

ギリシアの星空における、ペルセウスによるアンドロメダの怪物からの解放についての神話(古代の星座図の模写、9世紀)。

アラトス写本(いわゆるゲルマニクス写本、あるいはレイデンのアラトス)。

レイデン、王立図書館(Cod. Voss. lat. quart. 79)。

7 1 アンドロメダ(fol. 30v.)

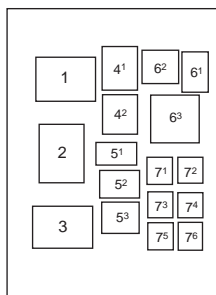
7 2 鯨(fol. 66v.)

7 3 ペルセウス(fol. 40v.)

7 4 馬(ペガソス)(fol. 32v.)

7 5 カシオペア、アンドロメダの母(fol. 28v.)

7 6 ケベウス、アンドロメダの父(fol. 26v.)



パネル2 解説

パネル2は、ギリシアにおける星辰をめぐる神話的表象の発生と展開(星座の成立)について扱っている。最初に、図1から図3までは、紀元前5世紀から6世紀に制作された工芸品、すなわち、クラテール(ワインと水の混酒器)、ピュクス(化粧品や装身具をいれる蓋付の円筒形容器)、レキュトス(油を香水にいれる細頸の壺)に描かれた、太陽神ヘリオス、および月神セレネである。

図1[拡大図]の右側では、四頭立ての馬車を駆ってヘリオスが登場し、子どもとして表わされた星々は海の中に落ちていく。ヘリオスを先導するのは、翼をもった曙の神アウロラであり、女神は人間の男性であるケパロスに恋して彼を追いかけいている。ケパロスの猟犬が吠えかけている人物が、左上に小さく描かれた、馬に乗ったセレネであり、女神は急いで場面から退場しようとしている。取っ手の上方に描かれている、右手を挙げた人物は、セレネの従者、または、セレネの愛したエンデュミオンであろう。

図2[拡大図]では、ヘリオスは二頭立ての馬車に乗って現われ、彼の頭上には太陽の光輝が描かれている。ヘリオスが昼の部分を宰領するのに対して、四頭立ての馬車を駆る夜の女神ニクスが夜の部分を支配している。ヘリオスとニクスの間で、馬上に両脚をそろえて据わり、後ろを振り向いている人物がセレネである。神々たちの頭上には円形の中に星辰が表わされており、また、ニクスの後部には、かろうじて二つの植物を見ることができる。ニクス前方には、四枚の棕櫚の葉で飾られた、奇妙なモニュメントが描かれており、これは、ホメロスが歌うところの「天と地とを引き離す、巨大な柱」(『オデュッセイア』1・53以下)であるという指摘もされている。図3[拡大図]は、同じく二頭立ての馬車に乗って、海から現われるヘリオスを正面から描いている。

ヘレニズム時代になると、ヘリオス(ソル)は、オリュンポス十二神の一人であり、人間の理性的で文明化された側面を象徴し、「ポイボス」(光り輝く)という呼称をもつアポロンと同一視されるようになった。アポロンはゼウス(ユピテル)とレトの子でアルテミス(ディアナ)の双子の兄弟であり、アルテミスは月神セレネ(ルナ)と同一の女神とみなされた。他方、アポロンに付き従う、学芸と芸術の女神ムーサたちは、ユピテルと記憶の女神ムネモシユネが九夜にわたって交わって生まれたとされる。図5 1[拡大図]は2世紀中頃にローマで制作された石棺の側面であり、そこには九人のムーサが彫られている。判別できるムーサは、右から二番目の、足下に球を置き、右手でコンパスをもつウラニア(天文学)、三番目のリラをもつテルプシコレ(舞踊と歌)、八番目の仮面を手にするメルポメネ(悲劇)、九番目の書見台を前にしたクレイオ(歴史)である。

このように、古代のギリシアでは、夜から朝への天体の変化などを神々の形姿によって表わしていた。そして、前5世紀以降になって、パピロニアからの影響もあって新しい知的探究が始まり、たんに天体の現象の神話的な記述や整理に留まらず、また、その法則性を発見しようとする知的営為が、すなわち天文学が生まれることになる。ヴァールブルクは、1911年に、ハンブルク愛書家協会における講演「古今の占星術に関する印刷物について」において、この経緯を次のように説明している。

天空の慣習的表現である天球儀は、古代ギリシア人の二つの才能から生まれた、真のギリシア文明の産物です。その二つの才能とは、直接的な具体物を想像する詩人的才能と、数学的な抽象的観念を視覚化する能力です。



図5 1の拡大図
図3の拡大図
図2の拡大図
図1の拡大図



パネル 53

ムーサたち。天と地のパルナッソス。(ラファエッロ)マンテーニャおよびスキファノイア宮との関連。上昇。

1

エラト、
『ペーザロの領主、令名高きコスタンツォ・スフォルツァによってカミッラ夫人のために挙行された、至福の結婚式における、壮麗で、驚嘆し、驚愕する装置』、1480年、ローマ、ヴァティカン図書館 (Cod. Vat. Urb. Lat. 899, fol. 59r.)

2

フィリッピーノ・リッピ、
《エラト》、
板にテンペラ、1500年頃、
ベルリン、国立絵画館。

3

フィリッピーノ・リッピ、
《信仰》、
フレスコ、1489-1502年、
フィレンツェ、サンタ・マリア・ノヴェッラ聖堂、ストロツィ礼拝堂。

4

ラファエッロ、
《ガラテア》、
フレスコ、1512年、
ローマ、ヴィッラ・ファルネジーナ。

5

ロレンツォ・ディ・ルドヴィコ・ディ・ギリエルモ・ロッチェ (通称ロレンツェット)
《キリストとサマリアの女》、
アグスティーノ・キージのピラミッド型石棺の台座のブロンズ浮彫り、1513/14年、
ローマ、サンタ・マリア・デル・ポーボ口聖堂、キージ礼拝堂。

6

6 1・2 ミケランジェロ、
《ナフシオンと未来の妻》、
ルネッタのフレスコ、1508-1511年、
ローマ、ヴァティカン宮、システィーナ礼拝堂。

7

ニコラウス・ベアトリーチェ、
《ムーサたちの神殿から 貪欲 (アウァリティア) を追放するヘラクレス》、
バルダッサレ・ペルツィによる素描に基づくウーゴ・ダ・カルピの木版画に依拠、
銅版画、1548-53年。

8

バッチョ・バンディネッリ周辺の画家、
《ムーサたち》、
素描、1530年頃。

9

ラファエッロ、
《アテネの学堂》、
フレスコ、1510/11年頃、
ローマ、ヴァティカン宮、署名の間。

10

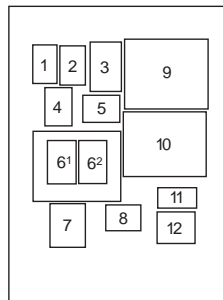
ラファエッロ、
《パルナッソス》、
フレスコ、1511年頃、
ローマ、ヴァティカン宮、署名の間。

11

マルカントニオ・ライモンディ、
《アポロンと二人のムーサたち》、
ラファエッロに基づく、
銅版画、1530年頃。

12

ヤーコポ・ティントレットに帰属、
《ムーサたちとピエリデスの競い合い》、
カンヴァスに油彩、1545年頃、
ヴェローナ、市立カステル・ヴェッキオ美術館。



パネル53 解説

このパネルは、とくにラファエッロにおいて結実した盛期ルネサンスの古代的理想様式の作品を中心として、アポロンとムーサのイメージが変容されつつ継承されていく過程をたどっている。

他の図像群と比べてひとつだけ際立って異質な図1は、すでにパネル36の図5として用いられていた図像である。1475年のコンスタンツォ・スフォルツァとアラゴンのカミッラの結婚に関する記録に付けられたこの細密画では、抒情詩や恋愛詩を司るムーサであるエラトがヴィオールと思われる楽器と弓をもち、同時代の衣裳を空想的に変容させた姿で描かれている。隣の図2も同じエラトを描いたものだが、ともに白鳥を従えている点では同じものの、こちらの女神は大きく翻ったゆったりした衣裳を身にまとい、髪を風になびかせているなど、描写がはっきりと古代風のものになっている〔図2の拡大図〕。横に置かれた楽器も鹿の頭部と角で作られた豎琴やそれを爪弾くための義甲プレクトラムとしての骨、そして葦笛といった、古代神話を連想させるものにされている。クビドをとともなっている点が同じ傾向を示していることは言うまでもない。

文芸のさまざまな分野を司る女神であるムーサたちについて、ここで基本的な事柄を確認しておこう。ヘシオドスの『神統記』などによれば、彼女らはゼウスとムネモシユネの娘で、九人いるとされている。ムーサたちはパルナツソス山に住み、彼女らの仕える神がアポロンである。

九人のムーサそれぞれが司る文芸の分野と持物アトリビュートは次のとおりである。

カリオペ、叙事詩、持物は書字板。

クレイオ、歴史、持物は巻物。

エラト、抒情詩、持物は豎琴。

エウテルペ、音楽と哀歌、持物は笛（アウロス）。

メルポメネ、悲劇、持物は悲劇の仮面。

ポリュヒュムニア、讃歌、持物はヴェール。

テルプシコレ、舞踊、持物は豎琴。

タレイア、喜劇、持物は喜劇の仮面。

ウラニア、天文、持物は杖と天球儀。

フィリッポ・ストロツィの墓所にグリザイユで描かれた同じフィリッピーノ・リッピの作品である図3では、中央に立つ 信仰 の擬人像が古代風の衣裳表現になっていること以上に、右上の二人の女性像〔図3の部分拡大図〕が重要である。これらはともに古代ローマの石棺浮彫り〔参考図1〕に身振りを借りたムーサとされている（以下、このムーサたちについては、Sale 1976, pp. 331-32 による）。アポロンやミネルヴァと九人のムーサが彫られたこの石棺は、現在、ウィーンのアート史美術館にあるが、かつてはローマのサンタ・マリア・マッジョーレ聖堂の前に置かれ、15世紀から16世紀の画家たちによって盛んに描かれていた。

フィリッピーノは図3左側の女性に石棺浮彫りの左から三人目のムーサに似た身振りを与え、右側の女性には、石棺の一番左にいるムーサの身振りを反転させて用いている。左側のムーサは巨大な豎琴を骨の義甲で奏でていることから、図2と同じくエラトと思われる。石棺浮彫りと同じく頬杖をつき台座にもたれかかっている右のムーサは、悲劇の仮面を手に行っていることから、悲劇を司るメルポメネであろう。このメランコリーのポーズが示すように、二人のムーサはいずれも深い瞑想に沈んでいる雰囲気である。そこに漂う悲哀は、エラトが喜劇の仮面を左足で踏みつけている仕



事項 索引

- ア行
- 愛の小箱 (Minnekästchen) P38
- 哀悼 (Trauer) 300, 329, 355
- アケロオスの角 (Horn des Achelous) P39
- 足早に運ぶ女性 (Eilbringitte) P46; 375, 541, 598, 672, 497
- 頭を手でつかむ身振り (Griff nach dem Kopf) P5, P7; 76-77, 80, 664-66, 671-73, 677
- アポロンの (apollinisch) 155, 388, 497, 647, 688
- アモルの懲罰 (Bestrafung Amors) P38, 38-9, 10; 270, 278
- アラ・カザリ (Ara Casali) P4-9; 69
- アラテア (Aratea) 50, 692, 696
- イコノロジー (Ikonomie) 8, 467, 650, 682
- 石の魔術 (Steinmagie) P22, 691
- イタリア風 (all' italiana) P38
- イタリアの犯罪者 (Italienischer Verbrecher) P79
- イデア (Idea) 17
- 異邦の天球 (Sphaera barbarica) 34, 54, 58, 60, 106, 112, 120-21, 129, 180, 692, 693, 694, 695, 700
- インプレーサ (Impresa) 393, 397
- インペラートル (Imperator) 88, 350, 366, 430, 550-51, 619, 631, 636, 638, 648-49
- 隠喩 (Metapher) P45, P49
- ヴィッラ・ファルネジーナ (Villa Farnesina) 18, 43, 444, 452-53, 462, 665, 693, 695-96, 699
- 動く付帯物 (Bewegtes Beiwerk) 85, 282, 286, 293, 511, 685
- 宇宙論 (Kosmologie) P20, P58; 112, 140, 146, 488, 634, 639, 649, 665
- 運搬車 (Vehikel) P34
- 運命の車輪 (Radfortuna) P23a, 23a-3-2; 140, 664-65
- 嬰兒虐殺 (Kindermord) P40, P40-5, 6, 7, 10, 11, P72, P73, P77; 301, 303, 359-60, 367, 432, 564-65, 665-66, 674, 678-79, 682
- エクフラシス (Ekphrasis) 474-75
- 似非治療師 (Gaukler) P28-29
- エネルギーの逆転 (Energetische Inversion) P42, P52; 69, 77, 304, 306-07, 310, 328-29, 334-35, 430, 437, 470, 459, 462, 475, 599, 606, 636, 649, 661, 665, 680, 700-01
- エレミターニ礼拝堂 (Cappella di Eremitani) P37-1; 262
- エングラム (Engram) 77, 306, 375, 389, 436, 474-75, 635, 637, 647-48, 651, 655
- 演劇 (Theater) P70
- エンブレム (Emblem) 393
- オットーの皿 (Otto-Prints) P38-2; 270-71, 274, 278, 283, 381, 665
- オリュンボス (化) (Olympus / Olympisierung) P54, P55; 459, 462, 488, 688-89, 692
- オルギア (Orgia) 88, 634-37, 647-48, 651
- オルペウスの死 (Tod des Orpheus) P41-10; 311, 479, 664-65
- 女首狩り族 (Kopfjägerin) P47; 350, 377, 381, 389, 541, 555, 665, 672, 674
- 女祭司 (Priesterin) P6; 81
- 女の略奪 (Frauenraub) P57; 68, 267, 532, 565, 664-66, 671-74, 677-79, 682
- カ行
- 外光派絵画 (Plein air) P55; 447, 463
- 凱旋 (Triumph) P57; 666, 670
- 凱旋行進 (Triumphzug) P40; 190, 300, 349, 648, 665
- 凱旋門 (Triumphbogen) P7; 92, 519, 648, 664
- 飼い慣らし (Domestizierung) P46; 377
- 解剖 (Anatomie) P75; 584
- 海洋の支配 (Seebeherrschung) P60
- 科学的解剖 (Wissenschaftliche Anatomie) P75; 666

